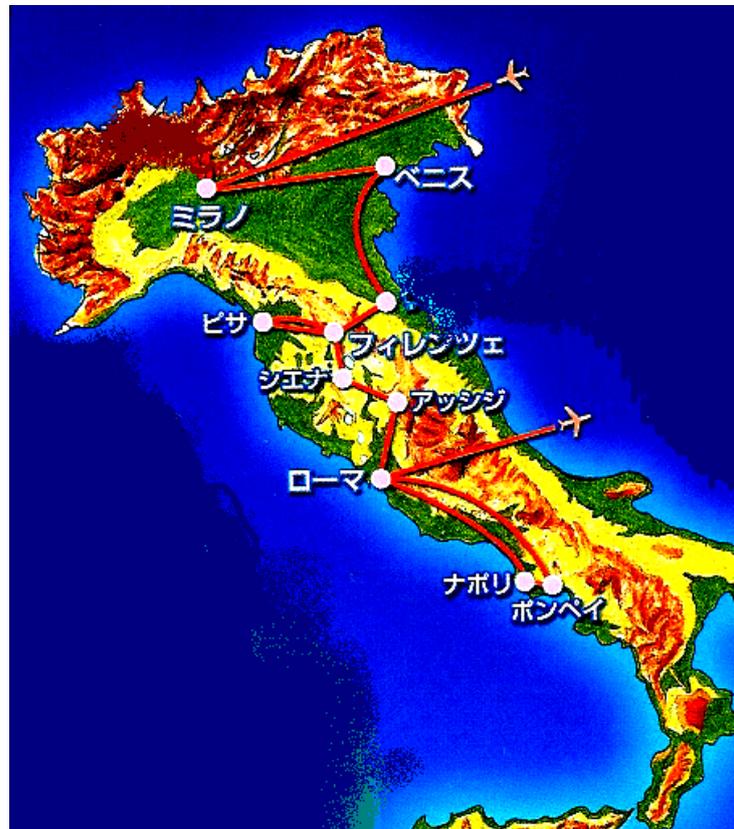


イタリア 観光ツアー (2006年10月)



山や海など自然にふれる旅とは趣を変え、古代ローマの遺跡やルネッサンス芸術を鑑賞するイタリアツアー（7泊8日）に参加した。

1日目 ☀️: 成田 ✈️ ミラノ (泊)

成田空港の集合場所に行くと添乗員のSさん（残念ながら男性）が待っていた。同行者は28名、新婚らしきカップルも2組いるが、熟年組が多い。両替所でレートを確認する。三井住友153円、千葉銀行155円と相変わらずユーロ高が続いている。

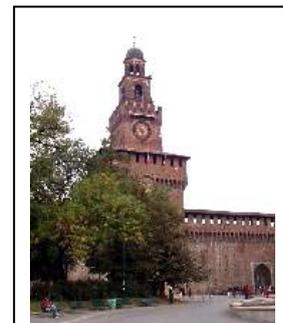
機は定刻通り13:00に離陸、JAL直行便でミラノまで約12時間のフライトである。ハバロフスクを通過し、北極圏を飛ぶ。高度11,000mの機窓から下を覗くと、茶色の山肌が見える。湊中学に「ツンドラ」というあだ名の先生（山脇先生）がいたことを思い出し、薄くなり始めた自分の頭にそっと手をやる。

夕刻ミラノに着陸、簡単な入国手続きを経て、郊外にあるリバモンティ・ホテルにチェックインする。日本とイタリアの時差は7時間、日本では真夜中である。ビールを飲んで寝ようと部屋のミニバーを開く。缶ビールが5ユーロ、高すぎる。持参のウイスキーを飲み、ベッドにもぐり込んだ。



2日目 ☀️: ミラノ 🚌 ヴェニス (泊)

モーニングコールに起こされる。7時だが、外はまだ薄暗い。朝食後、ミラノ市内観光に出発する。



スフォルツェスコ城 ミラノ最大のルネッサンス建造物で、ミケランジェロが死の直前まで彫り続けたという未完の大作「ロンダニーニのピエタ」像を見る。

ブレラ絵画館 ツアーの募集案内ではサンタマリア教会にあるレオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晚餐」を見学する予定であった。しかし、予約が取れず、この絵画館に変更された。ラファエロの「聖マリアの結婚」などを鑑賞する。



絵画館からスカラ座の前を通り、ガラス張りのドーム型天井と大理石の床装飾が見事なエマヌエーレ2世アーケードを歩く。優雅なカフェやブティックが軒を並べる華やかな通りである。この通りを抜けると、イタリアのゴシック建築の中でも最高傑作といわれ、ミラノのシンボルであるドゥオモ (大聖堂) の前に出た。

ドゥオモ 高さ108mの尖塔をもつ聖堂は1386年に着工、完成まで約500年の歳月が費やされたという。正面は修復のため工事用の足場で覆われていた。中に入ると、ステンドグラスが陽光に映えていた。屋上からミラノの町やスイスの山が見えるとガイドブックに書いてあるが、時間がなく登ることは出来なかった。



市内のレストランで昼食となる。リゾット (おじやのようなもの) とミラノ風カツレツ (薄く切った子牛のカツ) を食べながら高い缶ビール (4ユーロ) を飲む。



ミラノの街
(路上駐車が多い)



午後、バスで水の都、ヴェネツィア (英語名はヴェニス) へ向かう。ミラノから250kmの距離である。郊外のホテルにチェックイン、夕食は鯛のような魚のムニエルだった。ビールは高いので、安くてうまいワインを飲む。

3日目 ☀️: ヴェニス 🚌 フィレンツェ (泊)

今日も天気は良さそうだ。ヴェニス本島はバスや車の乗り入れができない。船に乗り換え、ヴェニス観光が始まる。



サン・マルコ寺院 水の都の表玄関であるサン・マルコ広場を通り、聖マルコを祭るため建立された寺院を見学する。中は観光客で溢れていた。

ドウカーレ宮 ヴェネツィア共和国時代に政庁や裁判所が置かれた建物で、ゴシック様式の外観と内部の天井画や壁画を鑑賞する。裁判で有罪となった囚人が牢に向かうとき、ため息をつきながら渡ったという橋（ため息の橋）を通り、薄暗い牢獄を見て、ため息をつく。



6人乗りのゴンドラに分乗し、遊覧する。陽気なイタリア船頭をイメージし、楽しみにしていたゴンドラだった。しかし、船頭の歌や案内はなし。私が少し動いてゴンドラが傾いたとき、「Don't Move!」と叫んだだけだった。

つぎに、ヴェネツィアガラスの工房を見学したあと、みやげ物店に案内される。陳列されたガラスや貝細工は美しく、素晴らしい。値札に書かれた数字も素晴らしかった。

昼食はイカ風味の黒いパスタ、美味かった。翌朝の便を見て驚いた。真っ黒だった。

イカスミパスタ



午後はヴェニスから花の都フィレンツェへ、250kmのバス旅である。イタリアを縦断するアペニン山脈を越え、フィレンツェから10kmほど離れたプラートという中世の町にあるホテルに到着する。

ホテルのレストランでマカロニを食べ、名産のキャンティワインを飲む。

4日目 🍇🍇: フィレンツェ 🚌 ピサ 🚌 フィレンツェ (泊)

朝食後、フィレンツェから西へ70 km、斜塔で有名なピサへ向かう。ガリレオが「振り子の原理」を発見したといわれるランプがあるドゥオモを見学する。ドゥオモの横にある斜塔は確かに傾いている。予約をすれば上れるが、倒れると怖いので外から見学するだけとした。



フィレンツェへ戻り、中華料理の昼食となる。青島ビールのほろ酔い気分、市内観光に出発する。

ミケランジェロ広場 小高い丘からフィレンツェの町を一望する。広場の中央にあるミケランジェロのダヴィデ像もフィレンツェ市街を見つめていた。



ドゥオモ 花の都を象徴する大聖堂である。中に入り見学するが、すでにたくさんドゥオモを見てきたので、どんなだったか覚えていない。

ウフィツィ美術館に入館するまで少し時間があった。近くにあるフィレンツェ最古の橋（ヴェッキオ橋）を眺めていると雨が降ってきた。川縁で絵やブランドまがいのバッグを売っていた人たちは、急いで商品を片づけ、傘を売り始めた。「なんぼや」と聞くと「5ユーロ」という。それほど高くはないが、折りたたみ傘を持っていたので断った。

ウフィツィ美術館 ルネッサンスを代表する傑作が集結する美術館でボッティチェリの



「ヴィーナスの誕生」「春」などが有名である。絵心はないが、ガイドの説明に耳を傾け「受胎告知」（ダ・ヴィンチ）、「聖家族」（ミケランジェロ）などを鑑賞した。

ラファエロの「ヒワの聖母」が貸出し中だったのは残念である。

ホテルに帰ると、フィレンツェ風Tボーンステーキの夕食が待っていた。イタリアで食べた料理の中で、このステーキが最もうまかった。この地域はイタリア有数の赤ワインの産地である。今宵もキャンティワインを飲み、イタリアを味わった。



5日目：フィレンツェ  シエナ  アッシジ  ローマ（泊）

今日は南へ250 km、ローマに向かう。曇ってはいるが、黄葉した菩提樹などを車窓に撮し、山中の高速道路をバスは走る。途中、古都シエナと聖者フランチェスコが生まれた町、アッシジに立ち寄った。

シエナでマンジャの塔、黒大理石造のドゥオモ、世界で最も美しい広場（シエナの人が知っているだけ？）、カンポ広場（右写真）を見学した。



昼食はトスカーナ料理、何が出てくるのかと想着いたら、豆のスープとでかいローストチキンであった。

午後、アッシジへ向かう。この観光ポイントは高台に聳えるサン・フランチェスコ大聖堂である。白亜の教会は絵のように美しい。「サン・フランチェスコの生涯」は必見とガイドブックに書いてあったので、壁画に注目し鑑賞した。



夕刻、永遠の都ローマに到着する。郊外のホテルにチェックイン、ホテルの夕食は魚（おひょう？）のムニエルだった。

6日目 🍀🍀：ローマ 市内観光（泊）

ヴァチカン博物館の入館が先着順のため、6時半にホテルを出発する。ヴァチカン市国の外壁に沿って観光客が列をなし、我々も後に並んで入館する。



混雑している館内の天井画、彫刻、絵画を見て歩き、システリーナ礼拝堂に入る。ミケランジェロの「最後の審判」や天井画に圧倒される。キリスト教の教義や聖書になじみの薄い私にはガイドの説明が頼りの宗教画鑑賞となった。



最後の審判



サン・ピエトロ寺院

3時間ほどの見学を終え、大きなピッツァを食べたあと、午後の観光が始まる。

映画「ベンハー」の戦車レースのモデルとなった競技場跡を車窓から眺め、コロッセオに到着する。古代ローマの円形競技場で甲子園球場のようだ。映画「スパルタカス」や「グラディエーター」で見た剣闘士の闘いがここで繰り広げられたという。



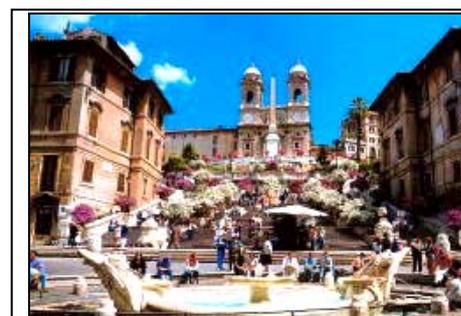
コロッセオをバックに全員で記念写真を撮る。1枚2,000円といわれ、買う人はいない。イタリアの物価高に皆悩まされているようだ。

次にテルミニ駅近くのローマ三越へ案内された。ユーロが少なくなったので、安い物を円で買い、ユーロのお釣りをもらう。



歩いてトレビの泉へ向かう。もうローマに来ることはないのだからコイン投げは遠慮し、ガイドお勧めのジェラート（アイスクリーム）を口にする。

映画「ローマの休日」でおなじみのスペイン広場に到着。スペイン大使館の旗がひらめく広場と階段は人、人、人である。スリに用心とガイドは繰り返し注意する。



少し自由時間があつたので、ピンチョの丘に登り、ローマの町並みを眺める。

オードリー演じる王女が恐る恐る手を入れた「真実の口」がある教会には行けなかったが、嘘がばれずよかったかもしれない。



今夜はカンツォーネディナーである。飲み放題のワインがテーブルに並んでいる。最後にサービスする旅行社の演出が心憎い。食事が始まり、ギターを抱えたおじさん2人と歌姫が現れた。「サンタルチア」など数曲歌った後、リクエストタイムになる。「アリベデルチ ローマ」をリクエストし、ほろ酔い気分でデュエットしたあと、彼女の胸元に5ユーロ紙幣を差し込んだ。

7日目 🍷🍷: ローマ 🚌 ポンペイ 🚌 ナポリ 🚌 ローマ

朝食を腹一杯に詰め、ローマの南東250kmにあるポンペイへ向かう。ヴェスヴィオ火山の噴火で眠っていた古代都市である。今回のツアーで最も期待していた観光である。しかし、ポンペイを目前にし、バスは大渋滞に巻き込まれた。理由はわからないが高速道路が閉鎖され、一般道路もノロノロである。今晚のフライトで成田に帰る旅程なので、添乗員も心配そうである。

3時間おくれでポンペイに到着。遺跡に入場するが、30分ほどの見学に終わった。

アサリスパゲティ（ボンゴレビアンコ）の昼食とナポリ見学はキャンセルされ、バスはローマ空港へ突っ走る。



ポンペイ遺跡



車窓（ローマ近郊）

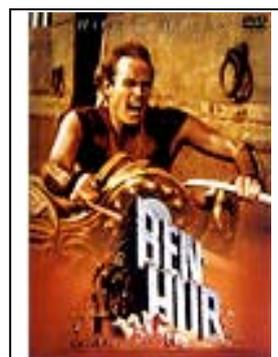
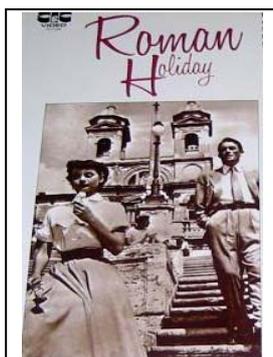
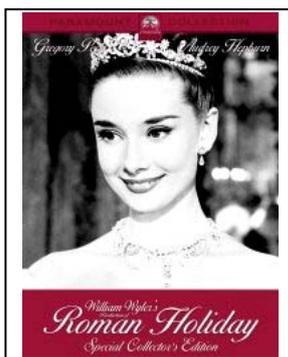
21:10 レオナルド・ダ・ヴィンチ空港を離陸、アリベデルチ ローマ。

8日目： ローマ  成田

フライトアテンダント嬢にオーロラが見えたら教えてくださいとお願いし、一眠りする。しかし、起こされることなく成田に到着し、イタリアツアーは解散した。

いま、この体験記を書きつつ、高校時代を振り返る。そこには：

ナポリ民謡を歌っていた南山先生、ピサの斜塔で物理の北村先生、建物の幾何学模様から田中可志子先生、ブランドファッションの田中嘉代先生、原田高行くん（10組）と彼女を誘って見た「ベンハー」、そしてオードリー・ヘプバーンに恋した私、がいた。



旅はいいものだとつくづく思う。